

“KANAGAWA” 福祉タイムズ

2003 4 No.617

発行日 2003年（平成15年）4月15日
毎月1回15日発行
発行所 〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
TEL045-311-1423 FAX045-312-6302
<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/>
編集発行人 清水勝夫
定 価 100円（郵送料込）
印刷所 神奈川新聞社
昭和27年1月30日 第三種郵便物認可



「早春の風をきって走る」横浜市在住の福盛清治さん（19歳）が大学の春休みに運転免許を取ろうと、障害のある方の自動車学校「東園」（9面参照）に入学したのは、友だちが取り始めた事と一生使える資格が欲しかったから。ハンドル操作が上手いかず辞めようと何度も思ったが、持ち前の「根性・努力」で最後までやってみようと思いつき、ここにきて良かった。友だちもできたし、寮生活は楽しい。将来の夢は気象予報士。免許を取ったらまず1人で星を見に行きたい」と爽やかに微笑む。（写真・文 菊地信夫）

あんぐる

昨年十二月に開業した東北新幹線盛岡―八戸間。地域が熱望した鉄路開拓は、基本計画決定から三十年の歳月を経て、ついに北東北に新たな交通の大動脈を築きました。その軌跡を「新幹線八戸開業前夜」と題して、開業初日の運転士・三上一夫氏らのインタビューを交えながら文芸春秋が紹介しております。三上氏は、大宮―盛岡間だった新幹線が始めて上野駅や東京駅のレールに乗り入れた時も、秋田新幹線が奥羽山脈を突き抜けた時も運転士として開業に立会い、まささらなレールを走り抜けた「実に運のいい男」。

しかしその「運」は、安全走行に向け、九六・六kmという途方もない開業区間を、事前にトロツコで踏破するという三上氏本人の努力もさることながら、何度も試験走行し、ブレーキの掛り具合やトンネルの特徴を頭に叩き込んでいった多くの車掌さんたちの、地道な努力が生み出したのだと記されています。

本年度は「新県社協活動推進計画」の三年次。これまで、皆様と築き上げた「成果」や「ネットワーク」という名のレールを大切にしながら、新たな課題解決に向け、職員一丸となり取り組んでまいりたいと思います。会員の皆様方のご支援・ご協力をお願いいたします。

県社協常務理事兼事務局長 清水勝夫

目次.....CONTENTS

平成15年度県社協事業計画・予算.....	2・3
学校を通じた多文化共生を目指して.....	4
平成15年度人材研修センター研修年間計画.....	5
第三者評価調査者0期養成研修会を開催.....	6
かながわ長寿社会開発センターいきはつらつ.....	7
連載・心のゆたかさをはぐくむ(1).....	10・11

市民参加の促進・福祉サービスの質の向上等 地域福祉活動の一層の広がりを目指して

～平成15年度県社協事業計画・予算～

去る3月28日に開催した評議員会で、平成15年度の本会事業計画・予算が決定しました。「新 神奈川県社会福祉協議会活動推進計画」の三年次を迎える15年度は、全国ボランティアフェスティバルの成果を反映したセルフヘルプ活動コーナーの開設や福祉サービスの第三者評価の体制づくり等、これまでの計画事業を着実に進展させます。

**ボランティア・セルフヘルプ活動
など市民参加の促進とセルフヘル
プ活動コーナーの開設**

福祉意識の啓発とボランティア、
当事者など市民活動の一層の促進
が図られるよう、かながわボラン
ティアセンターに「セルフヘルプ
活動コーナー」を開設し、セルフ
ヘルプ活動に関する相談、情報提
供、学習・交流機会の提供ととも
に活動拠点の整備を図ります。

また、活動相談やセミナーの開
催を通じ、ボランティア団体の運
営体制の確立に向けた支援を行
います。さらに一昨年に実施した「第
十回全国ボランティアフェスティ
バルかながわ」の成果を踏まえた
事業を実施するとともに、市町村
ボランティアセンターの機能強化
にも取り組めます。

**福祉のこころを育む取り組みやシ
ニア層の生きがいづくりともし
び運動の推進と活力ある長寿社会
の実現に向けて**

「公私協働による共に生きる社
会づくり」を目指す「ともしび運
動」の理念に基づき、ともしびポ
スター・絵本コンテストや福祉作
文コンクールを開催等、学童・生
徒を含む県民の福祉意識の啓発に
努めます。

平成15年度新規・重点事業（一部抜粋）

（単位：千円）

セルフヘルプ活動コーナーの運営	2,019
自助具利用促進事業	1,139
福祉用具適合評価事業	823
福祉従事者研修認証システム試行事業	2,169
地域福祉権利擁護事業（事業拡充）	140,484
福祉オンブズマンネットワーク研究事業	1,397
障害者・高齢者等のIT普及支援事業	2,347
福祉サービス第三者評価事業（公益事業特別会計）	8,476

住民参加による福祉のまちづく

**市町村社協活動の基盤強化のため
の支援と住民参加による福祉のま
ちづくりと市町村社協の経営支援**

また、障害者社会参加促進事業
として、障害者の日街頭キャンペー
ン等を実施するほか、障害者の就
労の場としての「ともしびショッ
プ」設置を支援します。

りを進めるための市町村社協の共
通指針である「改定地域福祉プラ
ン21」に基づき、市町村社協の中
長期の活動計画である「地域福祉
活動計画」の策定・改定・進管理
への支援を引き続き行います。

また、ふれあいのまちづくり事
業（地域生活支援センター事業）
の実施を通して、市町村社協機能
を生かした生活問題解決のための
取り組みを支援します。併せて、
日常生活圏域を基盤にした住民参
加活動を促進するため、地区社協
活動のあり方検討や交流集会を通
じ、子育てや在住外国人の生活課
題等への活動支援を行います。

さらに、市町村社協活動の効果
的・効率的な組織運営体制の整備
に向け、市町村社協を対象とした
経営相談事業の充実を図ります。

**権利擁護への取り組みと地域福祉
権利擁護事業の機能拡充等**

かながわ権利擁護相談センター
（通称・あしすと）では、権利擁護
相談及び「かながわ福祉サービス
運営適正化委員会」における福祉
サービス苦情解決事業の一層の充
実を図ります。

特に、地域福祉権利擁護事業に
ついては、在宅生活者だけでなく
病院等入院者・施設入所者にも対
象を拡大する等、機能の拡充に努

め、利用者やサービス提供者、関係機関との連携のもと、権利擁護相談、福祉サービスの利用支援を進めます。

また、福祉サービス利用者保護関係機関との連携を高めることを目的に、新たに福祉オンブズマンネットワークに関する研究にも取り組みます。

福祉サービスの利用支援に向けて 多様な情報手段の活用

利用者が必要としている福祉情報をわかりやすく提供するため、インターネット等様々な媒体を積極的に活用します。本年は新たに、かながわ福祉推進センターのホームページを開設し、情報収集・提供機能の強化を図ります。

自立した生活を支えるために「バリアフリー」の普及促進と経済的自立支援への新規事業

福祉用具・住宅改造についての専門的指導・助言を行うとともに、福祉用具等に関する各種セミナーを開催します。特に、本年度より建築士・理学療法士・作業療法士等による福祉用具・住宅改造についての具体的提案を含めた福祉用具適合評価事業を実施します。

また、自助具の利用を促進するため、自助具に係わるボランティア

アの活動調査や自助具の制作発表会を開催します。

さらに、「情報バリアフリー」の観点から障害者や身体機能の衰えた高齢者等の社会参加支援を目的に、IT常設体験展示コーナーの運営をはじめとする各種IT普及促進事業を実施します。

経済的自立への支援では、低所得で生計の維持が困難な一定の居住用不動産を有する高齢者世帯に対し、当該不動産を担保に生活資金の貸付を行う、長期生活支援資金貸付事業を新たに実施します。

福祉人材の確保と育成、求人求職活動の拡充と階層別研修の充実

福祉人材の確保にあたり、求人専用の相談窓口を新設します。また、昨年に引き続き社会人のための特別相談や離職者の就労支援を目的に、福祉施設等に研修派遣する福祉職場体験事業を実施します。さらに、巡回相談会や福祉施設等の人事・労働担当者向けのセミナーを実施します。

福祉従事者の研修関連事業では、中堅職員を対象とした新たなプログラム研修を実施する等、階層別研修の一層の充実を図るとともに、福祉現場での研修実施体制の支援を図るための階層別資質基準づくりや、その認証を行うための

システムについて検討を行います。

福祉サービスの質の向上に向けて サービス評価の促進と経営の透明性確保及び経営基盤の強化支援

社会福祉法人や施設の運営に対する透明性の確保と、適切なサービス提供を支援するため、福祉サービスの自己評価活動の促進を図ります。

また、福祉サービス第三者評価事業の実施に向け、「かながわ福祉サービス認証機構（仮称）」の設置準備や、評価調査者養成研修及び痴呆性高齢者グループホーム外部評価を実施します。

併せて、施設における労務、経理などの専門相談を行う福祉施設経営指導事業、経理面の堅実な運用のため、公認会計士を派遣し相談助言を行う自主監査事業を実施します。

県社協活動推進計画の見直し、新たな課題への対応

本会の中期事業指針である「新神奈川県社会福祉協議会活動推進計画（平成十三年度～十七年度）」の三年次にあたり、新たな諸課題に対応するため、現行の推進計画の見直しをすすめます。

（企画課）

平成15年総合資金収支予算書

（単位：千円）

会 計 単 位	本年度予算額	前年度予算額	増 減
一般会計	8,757,540	11,527,223	△2,769,683
公益事業特別会計	89,585	74,958	14,627
収益事業特別会計	36,953	26,386	10,567
生活福祉資金特別会計	609,300	633,058	△23,758
県単生活福祉資金特別会計	58,610	65,020	△6,410
生活福祉資金貸付事務費特別会計	87,937	102,376	△14,439
離職者支援資金特別会計	17,499	519	16,980
離職者支援資金貸付事務費特別会計	15,757	60,859	△45,102
合 計	9,673,181	12,490,399	△2,817,218

学校を通じた多文化共生を目指して

「かながわ多文化共生フォーラム」開催されるー

去る二月二十二日、外国人児童生徒の学習支援のための学校と地域との連携を考えようと、教員やボランティア関係者など百十二名が参加した標記フォーラムが、本会と神奈川県国際交流協会他の共催で開催されました。

第一部の事例発表として、図書室をボランティアグループに提供し、児童や親を対象とした日本語教室を行っている横浜市立いちよし小学校、「選択国際」という授業に地域の外国籍の大人が参加している大和市立下福田中学校、国際交流協会が学校と通訳ボランティアの橋渡し役となりコーディネートを行っている横浜市立港中学校の取り組みが報告されました。

第二部のパネルディスカッションでは、沼尾実氏（横浜市教育委員会）から「学校は外国籍児童生徒をきちんと把握し、外国籍であることを含め、子どもを認めていくことが大切」、櫻井縁氏（とよなか国際交流協会）からは「学校と地域の連携は、国際交流協会や杜協など中間組織がコーディネーター役として重要」との意見がありました。また、会場内の国際教室担当教諭から、自分が外国籍であるこ

とを隠し日本名で通したい子どもや家庭に対し、どう接すれば良いかといった質問や、様々な国籍の子どもが少数ずつ在籍する場合の対応の難しさなどの声がありました。

最後に進行役の山脇啓造氏（明治大学助教授）から、「多文化共生をテーマにしたフォーラムに、多数の教員が参加したことを前向きに捉え、このフォーラム自体を学校と地域の連携づくりに生かしてほしい」と提案がありました。

◆本フォーラムは報告書にまとめる予定です。問合せは、神奈川県国際交流協会企画情報課まで

TEL 045-896-2896
FAX 045-896-2945



日頃の活動を報告する事例発表では、参加者が熱心にうなづくようすもみられました

人として人の中で生き輝く姿を見てほしい

「(福)訪問の家」朋のドキュメンタリー映画のご紹介ー

重度の障害を持つ方々が日中を過ごす、日本で初めてのデイ・アクティビティ（日中活動）施設である「朋」（社会福祉法人訪問の家・横浜市栄区）の活動に、長年に渡り関わってきた映画監督の西山正啓氏が、三年半に渡り撮影・記録した「朋の時間／母たちの季節」が、全国各地で上映されています。

朋が設立されたのは一九八六年。在宅か施設又は病院への入所かという二者択一しかなかった当時の重症心身障害者福祉に一石を投じるこの取り組みは、それまで家族が夢に見た、「入所施設でもない世間一般の普通に近い生活」を実現させることとなりました。

作品では、一九七二年に横浜市立中村小学校に開級し重度・重複障害児の教育の場である「訪問学級」に集まった親たちの地域作業所を作る活動から、法人の設立、そして「朋」の誕生までの軌跡を追いつながり、障害のある方々を中心に、そこに集う家族や仲間たちのようす、そして心の動きを真摯に捉えています。

福祉の記録映画というと、とかく暗くてかわいそうなイメージを抱きがちです。しかし、この映画

に登場する全ての人が、常に笑顔を絶やさず、前向きに生きていくという姿には驚かされます。

日浦美智江法人理事長は、「人は人との関係の中で生き、人の中で人となるのだと信じ、障害のある子どもたちと私たち家族の生きる姿をたくさんの人に見てもらい、知ってもらいたい」と話します。



「この子がいたからこそこれほどの人生が送れた」そう語るお母さんたちのこぼれるような笑顔が印象的です

作品は四月二十五日まで、BOX東中野（東京都中野区）で劇場公開されているほか、本県内では三月より順次公開されています。また、上映事務局では、ビデオの貸し出しも行っています。

◆朋の時間上映委員会事務局

TEL 03-3397-1914

URL http://www.motherbird.net/~tomo_haha/

平成15年度「かながわ福祉人材研修センター」研修事業年間計画

◎＝新規 ○＝一部新規

No.	研修事業名	対 象	実施日数	実施時期(月)
1	新任施設等職員研修Ⅰ「基礎入門」	社会福祉施設等の新任職員	2	6
2	新任施設等職員研修Ⅱ「福祉概論」		3	7
3	新任施設等職員研修Ⅲ「各論」	上記受講者を「介護系」「相談系」に分けて実施	3	8
4	新任施設等職員研修Ⅳ「フォローアップ」	上記受講者の自己の振り返りとして実施	2	2
5	◎中堅職員研修Ⅰ	社会福祉施設等の中堅職員	5	9～10
6	◎中堅職員研修Ⅱ	中堅職員研修Ⅰ修了者	1	10～11
7	○法人・施設マネジメント研修Ⅰ	社会福祉施設等の幹部職員	2	11～12
8	○法人・施設マネジメント研修Ⅱ	施設長、管理職員	2	11～12
9	課題研修（適宜課題に応じ開催）	福祉従事者	4	適 時
10	スーパーバイザー育成研修	社会福祉施設及び団体の指導的職員 施設長＝1日は選択	7 2	9～11 6～7
11	職場内研修担当者研修 フォローアップ	福祉従事者 職場内研修の基本課程修了者	5 1	9 10～11
12	対人援助技術研修	社会福祉施設等において相談、介護等の業務に携わる職員	3	7～8
13	サービス提供責任者育成研修	ホームヘルパーの業務・労務管理を担う居宅介護事業所の管理者	6	6～9
13	◎救急法研修「基礎編」	社会福祉施設等の職員	1	5～6
14	救急法研修「応用編」	社会福祉施設等の職員	5	7
14	介護支援専門員実務研修〔県指定〕	介護支援専門員実務研修受講試験に合格した者	6	1～4
15	訪問介護員1級研修〔県指定〕	訪問介護員2級修了後原則1年以上の実務経験を有する者	45	8～3
16	身体障害者ガイドヘルパー養成研修〔県委託〕	訪問介護員2級資格者若しくは介護福祉士及び市町村から推薦を受けた者	7	10～11
17	知的障害者ガイドヘルパー養成研修〔県委託〕	訪問介護員2級資格者若しくは市町村から推薦を受けた者	6	9～11
18	難病患者等ホームヘルパー養成研修〔県委託〕	訪問介護員1級資格者及び履修者	1	8
19	介護支援専門員実務研修受講試験準備講習会	介護支援専門員実務研修の受験資格を有する者	3	8～9
20	介護福祉士資格取得準備講習会 Ⅱ 実技編	介護福祉士の受験資格を有する者 Ⅱ 一次試験合格者	7・8 1	10～11 2
21	介護支援専門員現任研修〔県委託〕 Ⅱ 基礎課程（在宅） Ⅱ 基礎課程（施設） Ⅱ 専門課程	介護支援専門員の資格を有する者	3 3 2	10～12 10～12 10～12
22	福祉用具プランナー研修〔県委託〕	福祉従事者・介護支援専門員等福祉用具相談員	12	7～9
23	福祉用具プランナーフォローアップ研修〔県委託〕	福祉用具プランナー研修修了者	3	11
24	介護支援専門員等福祉用具アセスメント研修〔県委託〕	介護支援専門員等	2	10～12

〈お問合せ先〉 研修研究課 ☎045-311-1429／FAX045-313-0737

読者の声

「サクラサク」季節に思うー

人はいつ自分が年を取ってしまったと認識するのでしょうか？

私の場合は、昨年の十二月から職場を離れ、四十年ぶりに職安の門をくぐった時でした。

「六十二歳じゃネエ」と、二度も三度も繰り返す係の人の言葉とため息に、困惑と職を失った不安とで、思わず「ムッ」としてしまいます。誰も好き好んで六十二歳になった訳ではないのに。

とはいえ、世間の風はとてつもなく厳しくて、六十歳以上の求人は皆無に等しい状況です。視線を変えて訓練校はというと、係の人曰く「今は仕事がない若い方が押し寄せていますから、結局年齢で引かかるので、勉強しても無駄ですよ」ハイハイ…。

帰り道、気が付くと背中を丸めスゴスゴと歩く自分があります。

だいたい前になります、新聞のコラムに《くどくなる・気短になる・愚痴になる・心はひがむ・身は古くなる》と、老人を詠んだ狂

歌が出ていました。私自身も思い

当たる節があつて、なるべくそう

ならないように心掛けて来たつもりです。それでも、身の置き所に

困ってしまう今の世の中で、思わず「でも」「だって」と口にしてしま

いそうになります。

そんな風にあれやこれやとぐずぐずと思い煩い、時間ばかりが過ぎてしまっていたのですが、先日、

偶然知り合いから仕事の誘いがきました。「捨てる神あれば拾う神あり」ではありませんが、世の中そ

う捨てたものではないと痛感しています。

あと何回春に巡り会えるのか全くの未知数ですが、今、こうして

在ることに感謝しつつ《昨日より・今日よりも・今・桜かな》の心意

気で頑張ろうと思っています。

(向原ひろこ)

▶ 投稿をお寄せください ▶

「福祉について思うこと」をテーマにした投稿をお待ちしています。他のテーマや本紙内容へのご意見ご感想でも結構です。分量は700字程度。匿名でも結構です。



郵送：〒221-0844
横浜市神奈川区沢渡4-2
FAX：045-312-6302
Mail：kikaku@jinsyakyo.or.jp
いずれも「県社協企画課タイムズ係」と明記のこと

県社協のひろば

第三者評価調査者0期養成研修会を開催

本会では、福祉サービス第三者評価事業の創設準備を進めておりますが、その一環として三月十八日から二十日に「福祉サービス第三者評価調査者0期養成研修会」を開催しました（受講者九十一名）。

「0期」と銘

打たれた今回の研修会は、第三者評価システムの構築途上にあつて、検討内容を情報提供し、準備段階からともに携わっていただく人材を発掘するという意図も込めて、

第三者評価機関設置準備委員会とワーキングチームのメンバーにより企画されました。

三日間連続というハードな日程でしたが、受講生の熱意と緊張感が最後まで感じられる研修となりました。研修内容は、評価のねらいから面接技術演習、効果測定までと盛りだくさんだったため、アンケートでは「内容が濃いのもっと時間をかけてもよい」「自主勉強会などの機会がほしい」等の意欲的な意見



面接技術演習ではグループに分かれ実際場面を想定した演習を行いました

や、「客観的な評価ができる調査者の養成が重要」「調査者自身の自己覚知が大切」等の調査者の資質に関する意見、評価システムに対する疑問点等が多数寄せられました。

今回の研修によって浮き彫りになった検討課題は、今後も様々な方々の参加を得ながら準備委員会で詰めていく予定です。

今夏には第一期養成研修も予定しており、0期研修受講生には牽引役として大きな期待が寄せられます。（企画課）

苦情受付担当者・解決責任研修会を開催

福祉サービス提供事業者の苦情解決体制が整備されつつありますが、受付担当者、解決責任者として業務に携わっている方々のための研修会を、三月四日と七日に開催しました。

四日に開催された「苦情解決受付担当者研修会」では、長野県運営適正化委員会事務局長・小池正志氏から「受付担当者に期待する」と題し、長野県での具体的な内容に触れながら、その役割についての講演がありました。

また、静岡県立大学短期大学助教授・對島節子氏からは、受付担当者に必要な面接姿勢についてロールプレイを交えての講演がありました。



七日の「苦情解決責任者研修会」では、かながわ福祉サービス運営適正化委員会・興石英雄委員長からの本

県の状況報告を交えた講演のあと、全社協企画部・有野陽一氏（写真）から「利用者の声をサービスの質につなげるために」と題し、講演をいただきました。全国の福祉事業者から集めた苦情の事例を交えた内容に受講者の関心も深く、場内からは現場での「なやみ」をあげての具体的な質問なども出されました。

また、南部地域療育センター・通園部園長・中山修氏と同福祉相談室主任・佐藤克也氏からは、実際に申し出のあった苦情への対応の経過や状況、特に苦情に対し「検証委員会」等を設置して熱心に取り組まれている具体例が報告されこちらも受講者にも好評でした。（運営適正化委員会）

かながわ長寿社会開発センター

いきはつらつ

高齢期を健康で、いきいきと過ごしたいー
明るく活力ある長寿社会の実現に向けた取
り組みを紹介します。

〈問合せ〉 ☎045-311-8734 FAX045-312-6302
http://www.nenrin.or.jp/~kanagawa/

かながわ長寿社会開発センター 平成15年度事業計画

明るく活力ある長寿社会の実現をめざし、平成14年4月
にスタートした「かながわ長寿社会開発センター」。

2年目にあたる15年度は、高齢者の社会参加活動を支援
し、健康と生きがいづくりを応援するために、次の各事
業を展開します。

1 かながわ高齢者文化祭開催事業

高齢者による社会活動や文化活
動の紹介・交流の場、また、多く
の高齢者が社会参加を始めるきつ
かけの場となることを願う次の二
つの構成で開催します。

①第十五回かながわ高齢者文化祭

九月二十七・二十八日に、県社
会福祉会館と隣地の横浜市沢渡中
央公園で講演会・シンポジウム・
活動紹介・ニュースポーツ体験・
世代間交流企画を始めとした多彩
なコーナーを展開します。イキイ
キ、魅力ある活動や経験の交流の
場となることを目指します。

②第二回かながわシルバー美術展

九月十二日～十四日、アートガー
デンかわさきで作品展を開催しま
す。県内在住の満六十歳以上の方
(素人)を対象に、日本画・洋画・
彫刻・工芸・書・写真の作品を募
集します(募集は後日お知らせし
ます)。

2 全国健康福祉祭選手団派遣事業

「ねんりんピック」の愛称で呼
ばれ、高齢者の健康・福祉・生き
がいに関する総合的なイベントと
して、徳島県で、十月十八日～二
十一日に開催される「第十六回全
国健康福祉祭徳島大会」に選手団
を派遣します。

昨年度、本県選手団は弓道が全
国優勝するなど、大変活躍したこ
の大会。本年は、卓球・テニス・
ソフトテニス・ソフトボール・ゲイ
トボール・ペタンク・ゴルフ・弓

昨年度の「かながわ高齢者文化祭」
(左)と「ねんりんピック」(中央)
のようす。(右)は「シルバー美術
展」大賞作品



道・剣道等のスポーツ交流大会と、
グラウンド・ゴルフや太極拳・サッ
カー・ソフトボール等のふれあい
スポーツ交流大会、さらに美術展・
シンポジウム等に百十五名程度の
参加を予定しています。

3 高齢者の生きがいづくりに関する情報提供事業

十四年度に開設したホームペー
ジと本紙面を通じ、社会参加活動
事例の紹介はもとより、各種イベ
ントや生きがい講座等、身近なシ
ニア・高齢者関連の情報の提供に
一層努めます。また、高齢者のイ
ンターネット利用を広げるため、
初心者講習会の開催等の取り組み
をすすめます。

4 シニアの仲間づくりの支援事業

グループ活動の立ち上げ時や運
営上の悩みに関する相談に随時応
じ、課題解決に向け、必要に応じ
アドバイザーを派遣します。また、
シニアグループ活動調査や活動事
例集を発行します。

5 明るい長寿社会づくりの推進機構運営事業

明るい長寿社会づくり推進機構
としての役割を果たすため、福祉・
保健・医療分野やスポーツ・レク
リエーション分野の知識経験者に
より構成された運営協議会を開催
し、事業推進方法や課題等を協議
します。また、市町村の高齢者生
きがい関連部所(課)の担当職員
等との連絡会議を開催します。

新着図書・資料

図書

★福祉教育実践ハンドブック／支援費制度対応 施設のケアプラン／療護施設の個別生活支援計画（全社協）

★新版 社会福祉学がわかる／AERA Mook（朝日新聞社）

★福祉労働の法Q&A（伊藤博義他、有斐閣）

★成年後見と意思能力（新井誠・西山詮他、日本評論社）

★障害者の雇用差別／日本から見たスウェーデンの実態（大谷強他、ノーマライゼーションNプランニング）

★子どもの権利擁護と子育て支援（堀正嗣、熊本学園大学付属社会福祉研究所）

私のおすすめ1冊

「ケアの原形論—看護と福祉の接点とその本質—」
金井一薫著



YMCA健康福祉専門学校
介護科教員
杉田えみ子

金井先生の20数年に及ぶナイチンゲール思想研究の成果を基に、長き地道な研究から今、21世紀を迎え、保健・医療・福祉の連携、統合の時代を形成するにあたり、ケアという領域の「原形」思考を明確にしてゆく意味と価値は大きいと思います。この1冊には、それが克明に書かれています。

前半は、17世紀からの英国のケアの土壌とケアの出発点。後半は、看護と介護の視点の共有化がわかりやすく書いてあります。この本をスタートにケアについて考えを深めてみてください。

ナイチンゲール看護研究所URL <http://www.nightingale-a.com/>



1998年刊
現代社・定価2,200円

資料

★子どもたちのグループホーム／地域小規模児童養護施設（高橋利一、筒井書房）
★住民の支え合いマップ作成マニュアル／聴取から支援課題の抽出まで（木原孝久、筒井書房）

★非営利組織研究／その本質と管理（島田恒、文真堂）

★欧米のホームレス問題／実態と政策（上）（小玉徹他、法律文化社）

★かながわのボランティア受入施設・団体／高齢福祉編（本会）

★相模原市地域福祉計画ワークショップ報告書（相模原市社協）

★平成15年度版東社協民間社会福祉施設モデル給与制度（東京都社協）

★福祉施設士「施設長」の実態調査（日本福祉施設士会）

★身体拘束廃止取り組み事例集／私たち

のゼロ作戦（日本看護協会）

★介護サービスに係る苦情相談事例集／13年度（兵庫県国民健康保険団体連合会）

★介護サービス市場の一層の効率化のために／介護サービス価格に関する研究会報告書（内閣府国民生活局物価政策課）

★のびのび暮らす／新たな高齢者居住福祉のあり方を目指して／（地域型高齢者協働居住推進委員会）

★神奈川県内の商業施設等における車いす対応バリアフリー調査報告書（全国脊髄損傷者連合会県支部）

★第8回障害者政策研究全国集会（障害者政策研究全国実行委員会）

★全障研第36回全国大会報告集（全国障害者問題研究会）

★ふれあいサロン・地域参加型リハビリ事業の評価に関する研究／社会的孤立防止・健康増進及び福祉のまちづくりに果たす役割と課題／報告書（同志社大学）

「福祉資料室」をご利用ください！

閲覧室のほか、文献検索、利用相談等のサービスを行っています。

◆利用時間：月～金（第3金曜、祝日、年末年始等を除く）の9時～17時

◆貸出し：2週間3冊まで

◆問合せ：☎045-311-8865

FAX 045-313-9341

◆インターネットでの資料検索

<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/tosyo/>

今月のいちおし クリック！

「神奈川県社会福祉協議会」のホームページをご紹介します
本会事業を中心に、福祉に関する様々な情報を掲載しています。災害や在住外国人、子育てなど、昨今の福祉課題に対する本会の取り組み成果を閲覧することができます。また、福祉求人や研修実施、研修講師、ボランティア活動等の情報や福祉資料室の図書・資料、県内福祉施設・団体等の地図検索も行うことができます。



URL <http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/>

Information

役員会の動き

◇理事会 3月18日・①各種委員会委員の選任、②かながわ長寿社会開発センター運営協議会委員の選任、③本会生活福祉資金貸付規程の一部を改正する規程(案)、④平成14年度一般会計並びに特別会計補正予算(案)、⑤平成15年度本会会費、⑥平成15年度事業計画並びに収入支出予算(案)、⑦匡済会文庫の一部寄贈について◇評議員会 3月28日・①本会生活福祉資金貸付規程の一部を改正する規程(案)、②平成14年度一般会計並びに特別会計補正予算(案)、③平成15年度本会会費、④平成15年度事業計画並びに収入支出予算(案)について

神奈川LD協会「LD講座2003」

◇内容 LD(学習障害)への理解と支援に向けた講座を開催します。①『LDかな?』と思ったとき 講師・中川克子氏(スクールサイコロジスト)〈保護者対象〉、②『LDとその周辺の軽度発達障害』講師・吉田友子(よこはま発達クリニック精神科医)〈保護者・指導者対象〉◇日時 ①5月18日(日)、②6月8日(日)、いずれも14時〜16時◇会場 ウィリング横浜(横浜市港南区)

◇参加費 一般3千円、協会正・賛助会員・学生2千円
◇定員 いずれも90名
◇問合せ (株)神奈川LD協会
☎045-984-7910
FAX 045-981-5054

清水基金「社会福祉施設助成事業」

◇対象 心身障害児・者(盲・ろうあを含む)の民間社会福祉施設を経営する既存の社会福祉法人
◇内容 ①施設の建築及び設備工事(原則増改築、改修、土木工事は対象外)、②機器類の購入、③車両購入(登録、保険に関する費用は対象外)※国・地方公共団体等の補助または他助成団体等への重複申込みをしている事業は対象外
◇助成金額 1法人1件、原則100万円〜700万円以内、申込者が事業費の25%以上負担
◇〆切り 8月31日(日)
◇問合せ (株)清水基金
☎03-3535-6231
FAX 03-3535-6303

運転免許取得をお考えの身障者の方へ

東園自動車教習所では国の委託により、身障者の方の運転教習を実施しています。操縦装置付き車両や手話による講習のほか、身障者専用の寮(有料)などもあり、安心して教習を受けることができます。また「身体障害者運転能力開発訓練センター」を併設。就職活動中の方が入所

した場合、所定の教習費が無料となります(訓練期間3カ月。1・4・7・10月が入所開始月。詳しくはお問合せください)。
◇所在地 埼玉県新座市堀ノ内2-1-46

46

◇問合せ 東園自動車教習所(通称「東園」)
☎048-481-2711
FAX 048-481-6578

寄託金品ありがとうございました

【寄託金】(敬称略)
▽(株)神奈川県自動車会議所▽横浜ビルシステム(株)▽神奈川県民共済生活協同組合▽川添貴美子▽日本農産工業(株)▽広瀬孫一▽田中良平▽協隆志



(株)ハックキミサワ様より社会福祉のためにご寄附いただきました

(計二二、二六九、九〇〇円)

【寄託品】(敬称略)

▽神奈川県定年問題研究会▽原田三郎

あなたの情報発信のおてつだい

デザイン・印刷・ホームページ制作

きかんし印刷
KKI

株式会社 神奈川機関紙印刷所

〒236-0004 横浜市金沢区福浦 2-1-12
営業部 TEL045(785)1700(代) FAX045(784)6902
制作部 TEL045(785)1788 FAX045(780)1598
http://www.kki.co.jp/

心ゆたかな保育者への道

2年間で夢を実現しよう

幼稚園教諭二種免許・保育士資格の取得が可能です

聖セシリア女子短期大学
幼児教育学科

〒242-0003 神奈川県大和市林間 2-6-11
☎046-274-8564(代) URL http://www.cecilia-wjc.ac.jp

心のゆたかさをはぐくむ(1)

心をめぐる問題と「癒し」の効果を考える

福祉サービス利用者の利益を保護と地域福祉の推進に向け、制度改正や環境整備に向けた取り組みが積極的におすすめられています。

地域の様々な場面で福祉を支える関係者は、選択することのできるサービスの領域を広げていくことはもとより、サービスの提供を通じ、利用者一人ひとりの状況やライフスタイルにあった、柔軟なサービスを提供していくことが求められています。

本年度の連載は、心を支援する取り組みを紹介しながら、いきいきと豊かに生活するために、どのような福祉サービスを今後取り入れたらよいかを考えていきたいと思っています。第一回目の今回は、社会の中のストレスと心の健康についてまとめてみました。

「心の時代」は「ストレス時代」

「物の時代」から「心の時代」へと変わりつつある今日。長引く経済不況や国際情勢の変動などにより、雇用や生活状況が常に不安定な状況下で、競争社会や情報化の進展で、物質的な欲求が十分に満たされている反面、精神的な欲求が満たされないといった皮肉な状況が生まれています。

人と人との関係が稀薄になりがちな今日、離婚や児童虐待、配偶者による暴力(DV)、少年犯罪の凶悪化、自殺、引きこもり、不登校児童の増加など、心に起因する様々な問題が社会の中で深刻な問題として浮き彫りとなってきました。

常に変動を遂げる社会環境に、

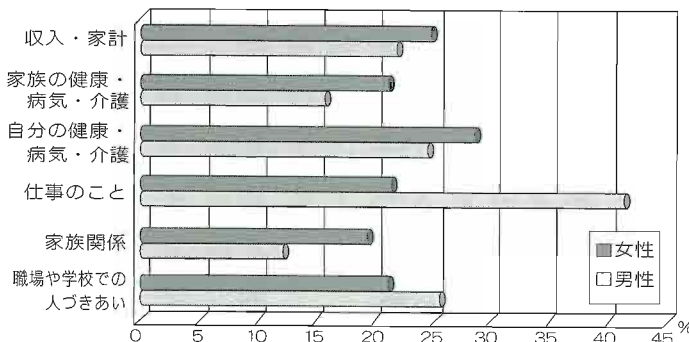
私たちは何とか適応していこうと、いろいろな手段を講じます。その際、心に生じる不満や悩み、苦勞などは「ストレス反応」と呼ばれています。

ストレスに遭遇した時は、個人差はあるものの、誰でもその影響を受け何らかのストレス反応を起していると考えられます。

一般的に、心に負担をかける悪いイメージを持たれがちなストレスですが、それをバネにして、障害から身を守ったり課題に挑戦したりすることで、良い作用を及ぼすこともあります。しかし、やはり長期間あるいは必要以上にストレスを感じていると、身体や精神の健康に良くない影響を及ぼすということも事実です。

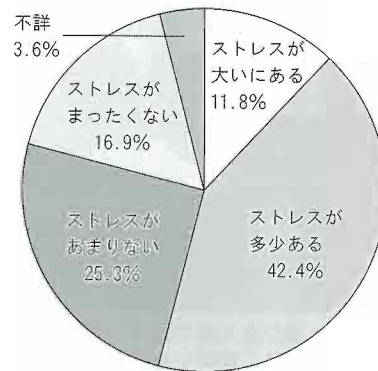
厚生労働省が、全国の十二歳以

(表1) ストレスの内容(男女別)



(厚生労働省：平成12年保健福祉動向調査より抜粋)

(図1) ストレスの程度別構成割合



上の男女から、保健・福祉に関する実態と意識を把握するために、毎年テーマを決めて行っている「保健福祉動向調査」で、平成十二年

に行ったストレスに関する調査(※)によると、最近一カ月(調査時点)の日常生活で、ストレスが「大きい」あるいは「多少ある」と答えた人は、全体の約六割に昇っています(図1)。

ストレスを感じる内容についての結果は(表1)のとおりですが、この結果から、その原因の多くが仕事や職場、学校、家庭などでの人間関係にあることをうかがい知ることができます。

心の健康をどう維持するか

世界保健機構(WHO)では「健康」を体・心・社会の三つに分けて定義付けています。

- ① 体の健康 (身体に不安がなく額に汗して体を動かせる状態)
- ② 心の健康 (いきいきと意欲をもって物事に取り組める状態)
- ③ 社会の健康 (人々が不安なく生活できる社会状態)

この三つの均衡が保たれることが、心身ともに健康といえます。

- 特に「心の健康」については、
- ① 情緒的健康 (自分の感情を上手に表現しコントロールできる)
 - ② 知的健康 (状況に応じ適切に考え現実的な問題解決が図れる)

- ③ 社会的健康 (他人や社会と建設的で良い関係が築ける)
- ④ 人間的健康 (人生の目的や意義

「あなたも仲間に…」

神奈川県視覚障害者福祉協会
会長 鈴木孝幸



私たち県視協は、今から55年前に県内の視覚障害者が集まり結成しました。今では県内21の市・町で組織があり独自の活動行っていますが、組織が無い市町村でも、他の障害を持つ人たちと一緒に活動をしています。

視覚障害がある事によって起こる生活や職業などの諸問題を解決するとともに、福祉制度の充実を図り、相互の交流や親睦のために活動しています。

大きな事業として、文化の集いを通じて文芸・音楽・芸術等の発表を行ったり、福祉大会では私たちの抱える諸問題を話し合い関係機関に要望したりしています。また途中で障害を持たれた人たちを中心として会合を開き、相談や生活面の助言を行っています。

広報活動にも力を入れており、毎月広報誌を活字・点字以外に録音やメールでも配信しています。

会には4つの部会があり、「女性部」は女性ならではの視点から子育てや生活面全般のことについて学習会や研修会を行っています。「青年部」は若い世代の人たちが集まり、研修やレクリエーションを通じて交流を深めています。「三療部」は同じ職業を持つ仲間同士で助言や研修を行っています。「スポーツ部」は県の代表として関東大会や全国大会等にも出場し、優勝や入賞を何回もしています。

本年5月15日から3日間にわたり、本県担当で全国盲人福祉大会を小田原市で開催します。この大会は全国から視覚障害者が二千名以上集まり、福祉の向上とバリアフリー社会の実現を目指して開催するものです。

この大会に向けて二つの課題を持って望んでいます。一つは、組織の充実に向け大会に一人でも多くの会員の参加を呼びかけていくことであり、二つ目は、家族やボランティアの皆さんに私たちの活動の方向を理解してもらう事です。同じ障害を持つものとして是非一緒にやって行きましょう。どんなことでもご相談ください。お待ちしております。

最近よく聞く「癒し」という言葉。英語ではヒール(heal)ですが、その語源は、「全体」という言葉を意味するホール(whole)と、健康

癒しの効果を考える

を見出し主体的に人生を選択する。なども大切な要素であり、生活の質を高めることで向上させることができるというわけています。さらに、ストレスと上手に付き合い、心の健康を保っていくためには、個人が自分自身を知ること、ストレスに対処する能力を高めるだけでなく、個人を取り巻く周囲の方々による支援体制を充実させ、ストレスの少ない社会を作っていくことが大切です。

を意味するヘルス(health)であるとされています。このことから、癒しは、心と体を良くし、健康な状態にさせていくものだと考えられます。最近「癒し」をテーマに、音や色、匂い、感触などを用い、人の五感を通じて心を支援し、体を健康にしていこうという多様なサービスや取り組みが、社会の中に生まれてきており、ストレスを回避し、楽しく豊かな時間を得ようと、たくさんの方が利用しています。しかし、残念ながらこのような取り組みは、目に見ることのできない「心」という部分に作用するものであるだけに、効果を確証することが難しいものが多く、その

必要性や統一的な専門性の向上に向けての取り組みは、公的には余り進んでいないのが現状です。

福祉サービスの中の心の支援

福祉サービスの利用者の多くは、高齢や障害などの問題から、行動が制限されるだけでなく、基本的な生活のために一日の大半の時間を必要とします。また、常に他の人からの援助を必要とするため、介護や援助のために、生活環境も機能性・利便性が重視されてしまふといった状況から、とかく体の健康の充実が優先され、心の健康を忘れてしまいがちになります。

これまでの福祉のあり方が見直されている今日において、福祉事

業者は、生命の維持や基本的な生活を支援していくだけでなく、心の健康に配慮したサービスを通じて、利用者個々の豊かで楽しい生活を実現し、実りある人生を送ることができるよう支援していく姿勢が求められています。

次号からの連載では、衣・食・住の各分野で、癒しの効果が期待できる様々な取り組みを行い、福祉の現場に取り入れている団体やグループを紹介していきます。その活動を通し、心を支援する福祉サービスのあり方を考えていきたいと思います。

(企画課)

※URL <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/hfkyosa/hfkyosa00/>



障害のある方の登山を助けともに輝く山頂へ

山岳集団ベルククラブ(小田原市)

選択の時代の到来で、障害のある方々が皆、これまで以上に、もっと楽しくいきいきと地域の中で生活したいと考えています。

関係者はその声に応え、基本的な生活を支える支援だけでなく、生活の全ての事柄から開放され、自由に行動できる時間の確保や自分の可能性を広げることのできる選択肢を、社会の中に整えていくことが今後の課題といえます。

今回は、身体に障害のある方々の登山を支援してきた「山岳集団ベルククラブ」(以下、クラブ)の、専任理事長である阿部さんと社会貢献推進室長の高橋さんに、活動のようすを伺いました。

生きる喜びを分かち合いながら

「多くの方と登山を楽しみたい」そんな思いから、三人の登山愛好家がクラブを設立したのは、昭和四十二年のこと。

「クラブの活動が軌道にのり始めた昭和五十年代は、おりしも国際障害者年の到来で、障害者の社会参加が活発になるうとしている

時でした。その頃、行政が主催していた障害のある方々の登山会を、クラブが中心となり開催してもらえないかという依頼があり、五十六年に『身体障害者協力登山会』を開催し、今年で二十三回目を迎えます。また、車椅子を利用され



「参加して良かった！」辛さの中から生まれる感動は何にも変えることはできないと参加した誰もが言います

ている方々を対象とした『光をあびよう車いすハイキング』は十九回を数えます」と阿部さん。

これまで参加した障害のある方は、登山会だけでも延べ千二百人。事故もなく長年開催することができたのは、多くのボランティアが

いてくれたからだといえます。

「安全な登頂ができるよう場所を厳選し、事前にメンバーが何度も登頂しながら、登山ルートを手作りで作成します。また、当日は長短様々な長さのさらしを使った独自の援助方法で、障害のある方をサポートしていきます。登山は、どんなに慣れている人でも常に危険を伴います。障害のある方は本当に自分に登山ができるのだろうか、またボランティアの方は、障害のある方と一緒に無事に頂上まで行くことができるだろうか、それぞれに不安を抱いていると思います。そんな緊張の中で、ともに助け合い語り合ううちに、まるで家族のように心がひとつになり、頂上につくと皆、手を取りあつて喜び合います。そこには障害の有無など関係のない、生きる喜びが溢れています」と高橋さんは、その醍醐味を語ります。

クラブでは、本年六月一日に二十周年を記念した合同登山会を熱海十国峠で開催するため、現在、参加者とボランティアを募集しているということです。(企画課)

山岳集団ベルククラブ本部

連絡先 ☎ 0465-2310416

URL <http://www.ne.jp/asahi/berg/club/>

—社会福祉施設的设计監理—

株式会社 安江設計研究所
YASUE & ASSOCIATES'Inc.

東京都港区高輪2-19-17-808

TEL03(3449)1771(代) / FAX03(3449)1772

E-mail: yasue-a@nifty.com



入所更生施設(横須賀市)

新築・増築・改修等お気軽にご相談ください